TARGET 一覧

TARGET 1 現在時制が表すもの

(1) 不変の真理 The earth goes around the sun. (地球は太陽のまわりを回る)→2

(2) 現在の習慣 Jack plays tennis after class every day. (ジャックは毎日放課後にテニスをする)→1

(3) 現在の事実 I live in this town. (私はこの町に住んでいます)

TARGET 2 原則として進行形にしない動詞

●知覚状態を表す動詞......

see 「…が見える |

hear 「…が聞こえる |

feel […を感じる]

smell 「…のにおいがする」 taste 「…の味がする」

●心理状態を表す動詞

like 「…が好きである」

love […を愛する]

hate 「…を嫌う」

know「…を知っている」 **→ 27 understand**「…を理解する」 **believe**「…を信じる」

want 「…が欲しい」

●その他の状態を表す動詞......

belong「所属する」

need 「…を必要とする」

consist「成り立つ、ある」 **exist**「存在する」

possess […を所有する]

resemble 「…に似ている」 → 16 depend 「頼る」 include 「…を含む」 contain 「…を含

contain 「…を含む」

have 「…を持っている」

* have は「…を持っている」の意味では進行形にしないが、「…を食べる」などの意味では進行形に できる。 → 10,68

- * smell が「…のにおいをかぐ」の意味の場合. taste が「…の味見をする」の意味の場合は進行形 にできる。
- * listen, look, watch は進行形にできる。

TARGET 3 when 節と if 節の見分け

● if 節のケース

(1) 副詞節「もし…すれば」 - if は条件を表す副詞節を導く接続詞 → 20if 節内が未来のことでも、現在形を用いる。

I'll stay home if it rains tomorrow. (明日雨が降れば私は家にいます)

(2) 名詞節「…するかどうか」 — if は名詞節を導く接続詞 (=whether) → 21
if 節内が未来のことであれば、will を用いる。通例、動詞や be sure の目的語で用いられる。
I don't know <if it will rain tomorrow>. (明日雨が降るかどうかわかりません)
S V O

● when 節のケース

(1) 副詞節「…するとき」 — when は時を表す副詞節を導く接続詞 \rightarrow 23 when 節内が未来のことでも現在形を用いる。

I'll call you when she comes home. (彼女が帰宅したら, あなたに電話します)

(2) 名詞節「いつ…するか」 — when は疑問副詞 → 22 when 節内が未来のことであれば、will を用いる。

I don't know <when she will come home>. (彼女がいつ帰宅するかわかりません)

S V O

TARGET 4 現在完了ではなく過去時制で用いる表現

yesterday 「昨日」 ... ago 「…前」→32 last ... 「この間の…/昨…」

then 「その時に」 just now 「今しがた/たった今」 \rightarrow 30 When ...? 「いつ…したか」 \rightarrow 31

when I was six years old 「私が 6 歳のとき」などの過去を明示する副詞節 など

TARGET 5 「…して~になる」の表現

以下の英文は、伝わる内容はほぼ同意と考えてよい。

- (1) It has been[is] three years since he died. $\rightarrow 40$
- (2) Three years have passed since he died. \rightarrow 41
- (3) He died three years ago. \rightarrow 42
- (4) He has been dead for three years. \rightarrow 42
- *(1) ~(3) は他の「…して~になる」の表現に一般化することが可能だが, (4) は die の形容詞 dead の場合のみ成り立つ表現。

TARGET 6 by 以外の前置詞と結びつく be done 表現

● be interested in A 「A に興味がある」 → 57

Paul is interested in astronomy.

(ポールは天文学に興味がある)

● be covered with A 「A におおわれている」

The top of the desk was covered with dust.

(その机の上はほこりでおおわれていた)

● be caught in A 「A (雨や交通渋滞など) にあう」 → 58

We were caught in a traffic jam during rush hour on Friday.

(私たちは金曜日のラッシュアワーで交通渋滞にあった)

● be satisfied with A 「A に満足している」

They were satisfied with their new house.

(彼らは新しい家に満足していた)

TARGET 7 be known の後の前置詞句

● be known to A 「A に知られている」 → 59

This song is known to all Japanese.

(この歌はすべての日本人に知られている)

● be known for A 「A で知られている」

British people **are known for** their love of nature.

(イギリス人は自然を愛することで知られている)

● be known as A 「A として知られている | →60

He is known as a jazz pianist.

(彼はジャズピアニストとして知られている)

● be known by A 「A で見分けられる」 → 61

A tree is known by its fruit.

(果実を見れば木の良し悪しがわかる=人は行為によって判断される)

TARGET 8 「確信度」の順位

- 「話者の確信度」は must が一番高く, could が一番低い。(左から右へ「確信度」が下がる) must / will / would / ought to / should / can / may / might / could
- * can は「理論上の可能性」で、may は「単なる推量」で 50% の「確信度」であり、「…するかもしれない(…しないかもしれない)」の意味。

TARGET 9 may / can / must

- (1) may
 - ①「…かもしれない → 66②「…してもよい | ③ (否定文で)「…してはいけない |
 - ④ 「S が…でありますように」 (*May + S +原形 ...! の形で) → 67
- (2) can
 - ①「…できる」 ②「…でありうる」 ③ (疑問文で)「はたして…だろうか」
 - ④ (否定文で) 「…のはずがない | → 70 ⑤ 「…してもよい (= may) | → 69
- (3) must
 - (1) 「…に違いない | → 65 (⇔ cannot 「…のはずがない | → 70)

 - ③ (否定文で)「…してはいけない」

TARGET 10 後に「that + S (+ should) +原形」の形が続く形容詞・動詞

- (1) 形容詞

 - necessary 「必要な」essential 「不可欠な」→85
- important「重要な」

- right 「正しい」
- desirable 「望ましい」 など

- (2) 動詞
 - insist 「主張する」
 - ・demand「要求する」→87
- ·require「要求する」→86
- request 「懇願する」order 「命令する」
- propose「提案する」

- suggest「提案する」
- recommend 「勧める 」 など
- *過去時制でもthat節中の「should+原形」または「原形」は変化しない。

TARGET 11 助動詞を用いた慣用表現

- (1) cannot ... too ~ [どんなに~しても…しすぎることはない] →93,94
- (2) cannot help doing = cannot help but do = cannot but do
 - ①「…せずにはいられない」、②「…せざるをえない」
- (3) may well do ① […するのも当然だ] → 95, ② [おそらく…するだろう] → 95
- (4) may[might] as well do ... as do ~ [~するくらいなら…する方がよい/~するのは…するよ うなものだ | →97
- (5) may[might] as well do 「…してもいいだろう/…する方がいいだろう」 → 96

TARGET 12 「助動詞+ have done」の意味

- (1) must have done […したに違いない] →98
- (2) can't [cannot] have done […したはずがない] →99
- (3) couldn't have done […したはずがない] →100
- (4) may [might] have done […したかもしれない] →101
- (5) needn't [need not] have done […する必要はなかったのに (実際はした)] → 107
- (6) should have done (1) 「…すべきだったのに (実際はしなかった)」 → 102, 103 ought to have done (2) 「当然…した [している] はずだ」 → 104
- (7) should not have done […すべきではなかったのに (実際はした)] → 105 ought not to have done […すべきではなかったのに (実際はした) | → 105
- (8) would like to have done […したかったのだが (実際はできなかった)] → 106

TARGET 13 仮定法過去の基本形 → 110, 111, 112, 113

If + S +動詞の過去形 ..., S'+would / could / might / should +動詞の原形~.

if 節 主節

「もしSが…するなら、S'は~するだろう(に)」

- * if 節内の be 動詞は原則として were を用いる (今では単数扱いの主語の場合は was が使われる こともある)。
- * if 節内の動詞表現が「助動詞の過去形+動詞の原形」となり、助動詞の意味が含まれる場合がある。
- *主節の助動詞にshouldを用いるのは、原則として1人称主語(I, we)の場合のみ。

TARGET 14 仮定法過去完了の基本形 → 114, 115, 116

If + S +動詞の過去完了形 (had done) ...,

if節

S' + would / could / might / should + have done \sim .

主節

「もしSが…したなら、S'は~しただろう(に)」

- * if 節内の動詞表現が「助動詞の過去形+ have done」となり、助動詞の意味が含まれる場合がある。
- *主節の助動詞にshouldを用いるのは、原則として1人称主語(I, we)の場合のみ。

TARGET 15 if S should do ...

● **if S should do …**, で **if** 節を表す表現は, **if S were to do …**, とほぼ同意だが、前者は、主節 に助動詞の過去形だけでなく、助動詞の現在時制が用いられる場合も多い。また、主節が命令文 になっていることもある。

If anything should happen, please let me know immediately.

(もし何かあれば、すぐに私に知らせてください)

● if S should do ..., は「まずあり得ないだろう」という話者の判断を表す表現なので、未来 [現在] の実現性の低いことを仮定する場合には用いるが、実現性のないことを仮定する場合には用いない。たとえば、「息子が生きているなら 20 歳になっているだろう」は If my son were alive, he would be twenty years old. と表現できるが、(×) If my son should be alive, ... とすることはできない。

TARGET 16 S wish +仮定法

- (1) S wish +S'+動詞の過去形(仮定法過去)...「S は S'が…すればよいのにと思う(現在の事実と反対の事柄の願望)」
- **(2) S** wish +**S**′+動詞の過去完了形 (仮定法過去完了) ... 「S は S′が…すればよかったのにと思う (過去の事実と反対の事柄の願望)」

TARGET 17 「主節+ as if 節」の注意点

- (1) He speaks as if he were an expert. (彼はまるで専門家のように話す)
- (2) He spoke as if he were an expert. (彼はまるで専門家のように話した)
- (3) She said to him, "You speak as if you were an expert."
 - → She told him that he **spoke** as if he **were** an expert.

「時制の一致」 「直説法の時制の一致は受けない」

TARGET 18 It is ... of A to do ~で用いられる形容詞

- kind 「親切な |
- polite 「礼儀正しい」
- wise 「賢い」
- careless 「不注意なし
- considerate 「思いやりがある」
- rude 「不作法な」
- clever 「利口な」
- foolish 「愚かな」
- stupid 「愚かな」
- cruel 「冷酷な」 など

TARGET 19 A is +形容詞+ to do 「A は…するには~だ」で用いられる形容詞

- dangerous 「危険な」
- pleasant 「楽しい」
- convenient 「便利な |
- difficult 「難しい | → 174
- impossible 「不可能な」
- *possible は用いられないので注意。

- safe 「安全な」
- comfortable 「快適な」
- easy 「簡単な」 → 173
- hard 「難しい」 → 175
- tough 「難しい」

TARGET 20 副詞用法の不定詞の意味と用法

(1) 目的「…するために/…する目的で」→176

We must study hard to pass the exam.

(その試験に受かるためには一生懸命勉強しなければならない)

(2) 感情の原因 「…して」 → 169

I was very glad to hear the news. (その知らせを聞いてとてもうれしかった)

(3) 判断の根拠 […するなんて/…するとは]

He must be rich to have such a luxury watch.

(彼がそんな高級腕時計を持っているなんて、金持ちに違いない)

(4) 結果 「その結果…する | → 170, 171, 172

She grew up to be a famous scientist. (彼女は大きくなって有名な科学者になった)

(5) 条件 「…すれば」 → 151

To hear her talk, you would take her for a Japanese.

(彼女が話すのを聞けば、君は彼女を日本人だと思うだろう)

(6) 形容詞の限定 「…するには | → 173, 174, 175

This river is dangerous to swim in. (この川は泳ぐには危険だ)

TARGET 21 独立不定詞

- to tell (you) the truth 「本当のことを言うと」 → 197
- to be frank with you 「率直に言えば」 → 192
- so to speak[say] 「言わば」 → 193
- to begin[start] with 「まず第一に」
- to be sure 「確かに」
- to do A justice「A を公平に評価すると」→199
- to make matters worse 「さらに悪いことには」 → 198

- to say the least (of it) → 196「控えめに言っても」
- strange to say 「奇妙な話だが」
- not to say A 「A とは言わないまでも」
- needless to say 「言うまでもなく」 → 191
- to say nothing of $A \rightarrow 195$ 「A は言うまでもなく」
 - = not to speak of A
 - = not to mention $A \rightarrow 194$

TARGET 22 原形不定詞を用いた重要表現

(1) All S have to do is (to) do ... $[S は…しさえすればよい] \rightarrow 200$

All you have to do is (to) fill in this form.

(この用紙に必要なことを記入するだけでよい)

(2) All S can do is (to) do ... [S にできることといったら…することだけだ]

All I can do is (to) write a letter to him.

(私にできることといったら、彼に手紙を書くことだけだ)

(3) S do nothing but do ... $[S \text{ id} \cup \text{Ctihylo}] \times S \text{ id} \times \text{Ed} = 201$

She did nothing but cry all day.

(彼女は一日中泣いてばかりいた)

(4) There is nothing to do but do ... 「…するより仕方ない」

There was nothing to do but wait until the next morning.

(翌朝まで待つしかなかった)

TARGET 23 「be + to 不定詞」の用法

(1) 予定・運命「…する予定だ/…することになっている」

We are to meet Mr. Tanaka tomorrow morning.

(私たちは明日の朝、田中さんと会う予定です)

(2) 意図・目的「…するつもりなら/…するためには」→203

If you are to succeed, you must work hard.

(成功したいなら、一生懸命働きなさい)

(3) **可能「…できる」**(to be done と受動態になっている場合が多い)

The pen was not to be found.

(ペンは見つからなかった)

(4) 義務・命令 […すべきだ/…しなさい] → 202

You **are to come** home by six.

(6 時までに帰ってらっしゃい)

TARGET 24 to do ではなく to doing となる表現

- look forward to A[doing] 「A […すること] を楽しみに待つ」 → 213
- **be used[accustomed] to A[doing]** [A[…すること] に慣れている] \rightarrow 216
- object to A[doing] [A […すること] に反対する」 → 214, 215
- \bullet devote A to B[doing] \rightarrow 220

「AをB[…すること] にささげる/AをB[…すること] に充てる」

- Come near (to) doing 「もう少しで…するところだ」 → 219
- **when it comes to A[doing]** 「話が A […すること] になると] \rightarrow 217
- What do you say to A[doing]? = What[How] about A[doing]? \rightarrow 218

[A はいかがですか […しませんか] |

TARGET 25 (in) doing の形を従える表現

- be busy (in) doing ... 「…することに忙しい」 → 223
- spend A (in) doing ... 「…するのに A (時間・お金) を使う」 → 225
- have trouble [difficulty] (in) doing ... 「…するのに苦労する」 → 224
- have no trouble[difficulty] (in) doing ...
 「…することが容易だ/難なく…する」
- There is no point[use / sense] (in) doing ... 「…しても無駄だ」 → 226, 227

TARGET 26 慣用的な分詞構文

- frankly speaking 「率直に言えば」
- generally speaking 「一般的に言えば」
- strictly speaking 「厳密に言えば」
- roughly speaking 「大ざっぱに言えば」
- talking[speaking] of A「Aと言えば」→ 268
- judging from A 「A から判断すると」
- seeing (that) …「…なので」
- depending on A

 「A に応じて/A 次第で | → 269
- weather permitting「天気がよければ」→ 264
- such being the case「そのような事情なので」

- considering A「A を考慮に入れると」 → 266
- considering (that) ... 「…を考慮に入れると」
- lacktriangle given $A \lceil A$ を考慮に入れると/A だと仮定すると $\rfloor
 ightarrow 265$
- given (that) ...「…を考慮に入れると/…と仮定すると」
- granting[granted] (that) ...
 「仮に…だとしても|
- provided[providing] (that) ... 「もし…なら」
- suppose (that) …「もし…なら」
- supposing (that) ...「もし…なら」
- all things considered「あらゆることを考慮に入れると」→ 267

TARGET 27 比較級・最上級の強調表現

- ●比較級の強調表現.......
 - much \rightarrow 300
- even \rightarrow 300
- . lota

• far

by far

· a great[good] deal

- still → 301
- · a lot
- ●最上級の強調表現......
 - by far \rightarrow 338
- · far

· much

- very
- *ただし、very は「the very +最上級+名詞」の語順になることに注意。
- She is **by far** the best swimmer in her class.
- = She is **the very best** swimmer in her class.
- (彼女はクラスでずば抜けて泳ぎがうまい)

TARGET 28 no +比較級+ than A

なかなか覚えにくい表現のようだが、問題316から述べてきた $\lceil not +$ 比較級 $+ than A \rceil$ $\lceil no +$ 比較級 $+ than A \rceil$ の違いを認識していれば容易。

- **not more than A** [多くとも A \leftarrow A 以上ではない] = at most A \rightarrow 323
- not less than A 「少なくとも A ← A 以下ではない」 = at least A → 324
- **no more than A** 「わずか A / A しか…ない」 (←① A と同じだが、② more の反対 (少ない) という視点から) = only A \rightarrow 321
- **o** no fewer than $A [A \in (たくさん)] = as many as <math>A \rightarrow 285$

TARGET29 ラテン比較級

- be inferior to A 「A より劣っている」
- be superior to A 「A より優れている」 → 326
- be senior to A 「A より先輩だ/A より年上だ」 → 325
- be junior to A 「A より後輩だ/A より年下だ」
- be preferable to A 「A より好ましい」

TARGET 30 senior, junior の名詞用法

senior「先輩/年長者」, junior「後輩/年少者」という名詞として用いる表現がある。

He is senior to me. = He is my senior. = I am his junior.

(彼は私の先輩だ/彼は私より年上だ) (私は彼の後輩だ/私は彼より年下だ)

TARGET 31 最上級の意味を表す原級・比較級表現

- Mt. Fuji is the highest of all the mountains in Japan. (最上級) → 329
 - (富士山は日本で一番高い山だ)
 - = No other mountain in Japan is so[as] high as Mt. Fuji. (原級) → 336
 - = No other mountain in Japan is higher than Mt. Fuji. (比較級)
 - = Mt. Fuji is **higher than any other mountain** in Japan. (比較級) → 335
- *最上級表現の場合は「(the) +最上級+ of +複数名詞」の形で「~の中で最も…」の意味になることが多い。この場合「of +複数名詞」が文頭に来る場合もあるので注意。
- Time is the most precious thing of all. (最上級) → 329

(時はすべての中で一番貴重である)

- = Nothing is so[as] precious as time. (原級)
- =There is **nothing so[as**] precious **as** time. (原級)
- = **Nothing** is **more** precious **than** time. (比較級) → 337
- = There is **nothing more** precious **than** time. (比較級)
- = Time is **more** precious **than anything else**. (比較級)

TARGET 32 「形式目的語 it + that 節」の形をとる慣用表現

● depend on[upon] it that 節「…するのをあてにする」

You may **depend on it that** he will join us.

(彼が私たちに加わると思っていいですよ)

● take it that 節「…だと思う」

I take it that you are not interested.

(あなたは興味がないと思います)

● have it that 節 「…と言う」

Rumor has it that he is getting married.

(うわさによれば彼は結婚するそうです)

see (to it) that 節「…するように気をつける/…するように取り計らう | →350

TARGET 33 非人称の it を用いた構文

(1) It happens [chances] that 節 「たまたま…である」

It happened that I met him. (偶然彼に会った)

(= I happened to meet him.)

(2) It seems[appears] that 節「…のように思われる」→352

It seems that she is sick. (彼女は病気のようだ)

(= She seems to be sick.)

(3) It follows that 節「(したがって) …ということになる」→351

From this evidence it follows that she is guilty.

(この証拠から彼女は有罪ということになる)

TARGET 34 人称代名詞

		主格	所有格	目的格	所有代名詞
1人称	単数	I	my	me	mine (私のもの)
	複数	we	our	us	ours (私たちのもの)
9 1 4/2	単数	you	your	you	yours (あなたのもの)
2 人称		you	your	you	yours (あなたたちのもの)
3人称	単数	he	his	him	his (彼のもの)
		she	her	her	hers (彼女のもの)
		it	its	it	_
	複数	they	their	them	theirs (彼らのもの)
***・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					

^{*}it の所有代名詞はないことに注意

TARGET 35 相関的に用いる不定代名詞 (1) one — the other \rightarrow 379, 383 the other one (2) some — the others \rightarrow 381, 384 60 $(\hat{\cdot})$ the others some (one — the other の複数形のパターン) (3) one — another \rightarrow 380 another one others (4) some — others[some] \rightarrow 382 some [some] (one —— another の複数形のパターン) *「残りすべて」は the others (\rightarrow 381, 384) (1つなら the other (\rightarrow 379, 383)) と考えればよい。

TARGET 36 most, almost all を含む表現

- (1) most +名詞=almost all +名詞「(限定されない) 大半の…」→389
- (2) most of the[one's] +名詞=almost all (of) the[one's] +名詞「(限定された特定の) …の 大半」→390,391

TARGET 37 something / nothing を用いた定型表現

 $R \cap$

- (2) have something to do with A 「A と何らかの関係がある」
- (3) There is something +形容詞+about A. 「A にはどことなく…なところがある」 → 395
- (4) There is something wrong[the matter] with A. 「A はどこか調子が悪い」→394
- (5) nothing but $A \lceil A \not\subset t \rfloor = only A$
- (6) There is nothing like A. [A] ほどよいものはない] \rightarrow 393
 - = There is nothing better than A.

TARGET 38 soとnot - that 節の代用表現 → 397, 398

- (1) think, believe, expect, guess, suppose は次の2通りの表現が可能。 I don't suppose so. = I suppose not. 「そうでないと思う」
- (2) hope と be afraid には、直接 not を続ける形しかない。

I hope not. 「そうでないことを望む」 (×) I don't hope so.

I'm afraid not. 「残念ながらそうでないと思う」 (×) I'm not afraid so.

TARGET 39 再帰代名詞

人称	数	単数	複数
1	人称	myself	ourselves
2	人称	yourself	yourselves
3	人称	himself / herself / itself	themselves

TARGET 40 「前置詞+再帰代名詞」の慣用表現

● by oneself (= alone)「ひとりで」

She must feel lonely left all by herself.

(まったくひとりぼっちにされて、彼女は孤独だと感じているに違いない)

- to oneself 「自分だけに | →403
- for oneself 「独力で/自分のために」

If you don't believe me, go and see for yourself.

(私の言うことを信用しないなら、自分で見に行きなさい)

- in itself[themselves] 「それ自体/本質的に」→404
- in spite of oneself 「思わず」

He smiled in spite of himself.

(彼は思わずにっこりした)

● between ourselves 「ここだけの話だが」 (= between you and me)

This matter is **between ourselves**.

(これはここだけの話です)

● beside oneself (with A) 「(Aで) 我を忘れて」 → 402

TARGET 41 関係代名詞

格 先行詞	主格	所有格	目的格
人	who[that]	whose	who(m) [that]
人以外	which[that]	whose	which[that]

- *目的格関係代名詞は省略されることがある。→415,416
- * who は主格と目的格を兼ねることに注意。

TARGET 42 That is why ... & That is because ...

(1) That is why[the reason why / the reason] ... 「そういうわけで…」

The train was delayed. **That's why** I was late for school.

(電車が遅れていたんです。そういうわけで学校に遅刻しました)

(2) That is because ... 「それは…だからです」

I was late for school. **That's because** the train was delayed.

(私は学校に遅刻しました。それは、電車が遅れていたからです)

*表現の順序がまったく逆になる点に注意。

TARGET 43 関係代名詞 as を用いた慣用表現

- as is usual with A 「A にはいつものことだが」→446
- as is often the case with A 「A にはよくあることだが」
- as is evident from A 「A から明らかなように」
- as so often happens 「よくあることだが」
- as might have been expected 「期待されたように」 → 447

TARGET 44 等位接続詞を用いた相関表現

- **le** both A and B $[A \\delta B \\delta]$ → 469
- **not** A but B $\lceil A \ \text{ではな} \langle B \rfloor = B$, (and) not A → 470
- **not only A but (also) B** $\lceil A \rangle$ $\land b$ $\land b$
- **neither A nor B** $[A \in B \in \cdots \in A]$ **→ 473**
 - = not ... either A or B
 - = not ... A or B
- *原則として A. B には文法的に対等な表現がくる。

TARGET 45 名詞節を形成する接続詞 that と関係代名詞 what → 474, 475, 476

接続詞 that と関係代名詞 what はいずれも名詞節を形成するが、次の違いがある。

- 接続詞 that: that 以下は完結した文。
- 関係代名詞 what: what 以下は名詞表現が欠落した文(what 自体が、節内で名詞の働きをするため → 437)。
- (1) My uncle knows () I want this book.(私のおじは私がこの本を欲しがっていることを知っている)
- (2) My uncle knows () I want.(私のおじは私が欲しいものを知っている)
- *(1) は空所の後が完結した文であるため、接続詞 **that** が入る。(2) は空所の後が **want** の目的 語が欠落した文であるため、**what** が入る。**what** は、節内で **want** の目的語として名詞の働きをしている。

TARGET 46 同格の that 節をとる名詞

●後にthat 節をとる動詞の名詞形 (「動詞+that 節」→ 「名詞+that 節」)

- · demand 「要求 |
- ·assertion 「主張」 → 475
- · order 「命令」
- belief 「考え」
- ・thought 「考え」 → 476
- ·hope「希望」

- **suggestion** 「示唆, 提案 |
- conclusion 「結論」
- · supposition 「仮定」
- recognition 「認識」
- ·report「報告」

- · dream 「夢」
- · claim 「主張 |
- · proposal 「提案」
- proposition「提案」
- · request 「提案 |

●その他の名詞

- idea 「考え」
- · opinion 「意見」
- ·impression 「印象」
- ·fact 「事実 |

- ·possibility「可能性」
- theory 「理論」
- · evidence 「証拠 |

- news 「知らせ」
- rumor 「噂」
- chance 「見込み」

TARGET 47 time を使った接続詞

● the first time 「初めて…するときに | →485

The first time I met her, I liked her at once.

(彼女に初めて会ったとき、すぐに好きになった)

- (the) next time 「次に…するときに」→486
 - *節内が「未来」のことであれば、the をつけない。

Next time I come, I'll bring along my children.

(今度来るときには子どもを連れてきます)

● the last time 「最後に…するときに |

The last time I met him, he looked tired.

(最後に彼に会ったとき、彼は疲れて見えた)

● any time […するときはいつでも]

Come and see me, any time you want to.

(来たいときにはいつでも会いに来てください)

● every time[each time] […するときはいつも/…するたびに]

Every time we go on a picnic, it rains.

(私たちがピクニックに行くたびに雨が降る)

TARGET 48 接続詞 the moment など

as soon as 「…するとすぐに」と同様の意味・用法を持つ接続詞に、以下のものがある。

- the moment \rightarrow 489
- the minute

● directly (英)

• the instant

• immediately

TARGET 49 ... hardly ... when ~など → 490, 491

「…するとすぐに~」の意味を表す相関表現は、以下のように整理して押さえておくとよい。

- (1) ... $\begin{cases} hardly \\ scarcely \end{cases}$... $\begin{cases} when \\ before \end{cases}$ ~
- (2) ... no sooner ... than \sim
 - *主節動詞(…) に過去完了、従節動詞(~) に過去形を用いて、過去の内容を表すことが多い。
 - * hardly, scarcely, no sooner は否定語だから, 文頭にくると主語と動詞は倒置形になる。
 - *なお, **(1)** で hardly, scarcely ではなく not を用いて, had not done ... before[when] ~の形になると、「…しないうちに~する」の意味となる。

I had **not** gone far **before** it began to rain.

(遠くまで行かないうちに雨が降りだした)

TARGET 50 動詞から派生した条件節を導く表現

以下はいずれもif「もし…ならば」の意味を表す。

provided (that)

• supposing (that) \rightarrow 497

• providing (that) \rightarrow 496

suppose (that)

*(×) supposed (that) の形はない。誤答選択肢に使われることがあるので注意。

TARGET 51 接続詞の as の用法

(1) 原因・理由の as 「…なので」

Let's go by car, as I have a car. (車があるから, 車で行きましょう)

(2) 様態の as 「…するように/…する通りに」→526,528

He sang **as** she did. = He sang **the way** she did.

(彼は彼女の歌う通りに歌った)

- *このas はthe way でも表現できることも押さえておきたい。→527
- (3) 比例の as 「…するにつれて/…するにしたがって」→523

As one grows older, one becomes wiser. (人は年をとるにつれて、賢くなる)

(4) 時の as […するとき/…しながら/…したとたんに] → 524

He went out just as I came in. (ちょうど私が入ってきたとき、彼は出て行った)

- *when やwhile よりも同時性が強い。
- (5) 譲歩の as 「…だけれども |

Tired as he was, he went on working. (疲れていたけれども, 彼は働き続けた)

*譲歩を表すのは、「形容詞/副詞/無冠詞名詞 $+as + S + V \dots$ 」の形の場合に限られる。

→ 503, 504

(6) 限定の as 「…するような」→525

Language **as** we know it is a human invention.

(私たちの知っているような言語は人間が創り出したものです)

*直前の名詞の意味を限定する。it は language を受ける。

TARGET 52 時を表す in / on / at

- (1) in 「幅のある期間 (年/季節/月)」に用いる。
 - **in** 2003 「2003 年に

● in July 「7月に」

- in (the) spring「春に」
- (2) on 「日(曜日/日付)」に用いる。
 - on Tuesday 「火曜日に」
 - **on** September 10(th) 「9月10日に」 → 530
- (3) at 「時の1点(時刻/時点)」に用いる。→529,532
 - at seven o'clock 「7 時に」
- *不特定で一般的な朝・午後・夜などを morning, afternoon, evening で表す場合は, in the morning / in the afternoon / in the evening など in を用いる。
- *他方, 特定の朝·午後·夜などや形容詞で修飾する場合には, 例えば on the morning of June 25th / on a cold morning などのように on を用いる。→531
- * night の場合は、不特定で一般的な「夜」なら at night を用いるが、cold などの形容詞で修飾する場合には on a cold night と表現する。

TARGET 53 場所を表す in / on / at

- (1) in -①「空間」(space) をイメージする比較的広い場所の中であること、②何かで囲まれた「内部」を示す。→551
 - ① in Japan 「日本で」, ② in my car 「私の車で」
- (2) on -① 「面 | (surface) に接触していること、② 「近接 | を示す。 → 549,550
 - ① **on** the wall 「壁に」, ② a village **on** the lake 「湖のほとりの村」
- (3) at -① 「点」(point)をイメージする比較的狭い場所であること,② 「地点」を示す。 \rightarrow 548
 - ① at a town in Kyushu 「九州のある町で」, ② at the door 「ドアのところで」

TARGET 54 具体的な交通・通信手段を表す表現(名詞に所有格や冠詞がつく場合)

- ①小型の乗り物 in our car, in the elevator → 583
- ②大型の乗り物 on the train, on our ship
- ③またがる乗り物 on my bicycle, on his motorcycle
- ④通信手段 on the (tele)phone, on the radio, on the Internet →582

TARGET 55 動詞+A+by[on/in] the +身体の一部

- hold[catch / seize] A by the arm [A の腕をつかむ] →593
- shake A by the arm 「A の腕をゆさぶる |
- touch A on the head [A の頭をさわる] → 594
- hit A on the head 「A の頭をたたく」
- slap A on[in] the face [A の顔を平手打ちする]
- kiss A on the cheek 「A のほおにキスをする」
- tap A on the shoulder [A の肩を軽くたたく]
- look A in the eve(s) $[A \cap B \in A] \rightarrow 595$
- stare A in the face 「A の顔をじっと見る」 など
- *この用法の look, stare は他動詞で at が不要なことに注意。

TARGET 56 相関的表現が主語の場合

- (1) 複数扱いするもの (A and B が主語の場合. 一般に複数扱い)
 - both A and B $[A \in B \in A]$
- **(2)** 原則として **B に一致**させるもの
 - not A but B 「AではなくB|
 - not only A but (also) B $\lceil A \rangle$ $\land C$ $\land C$

 - neither A nor B $[A + B + \cdots + c] \rightarrow 602$
- **(3)** 原則として**A に一致**させるもの
 - A as well as B $\lceil B \not\subset C \not\subset A \not\subset A = not only B but (also) A \rightarrow 603$

TARGET 57 「分数+ of A」と同じ扱いをするもの

A に動詞を一致させるものとして、以下の表現を押さえておこう。

● half of A 「A の半分」

● the rest of A 「A の残り」 など

some of A 「A のいくらか」

TARGET 58 形は複数形でも単数扱いの表現

(1) 国・団体・新聞などの名前→612

the United States 「アメリカ合衆国」, the United Nations 「国際連合」, the Times 「タイ ムズ紙 | など

(2) 学問・学科・ゲーム・病気などの名前→613

linguistics 「言語学」, statistics 「統計学」, mathematics 「数学」, billiards 「ビリヤード/ 玉突き」, measles 「はしか」など

(3) 時間・金額・距離・重量などを表す語 (複数名詞)→614,615

*時間が単数扱いにならない場合については問題41参照。

TARGET 59 「how +形容詞・副詞」で問う内容

● how far ➡ 「距離 |

how large → 「大きさ・広さ」

how much → 「金額·量 | →624

how long → 「時間の長さ・物の長さ」

how often → 「頻度・回数 | →626

● how soon ➡ 「時間の経過 | → 623

*「how+ 形容詞·副詞」で形容詞·副詞の程度を問う表現は多いが、上記は特に重要なもの。

TARGET 60 強制的に倒置が生じる場合

(1) only のついた副詞 [句/節]が文頭にきた場合 →646,647

Only then did I know how glad she was.

(その時になって初めて彼女がどんなに喜んでいるかがわかった)

(2) never[little] が文頭にきた場合 →645

Never have I read such an interesting story.

(こんなにおもしろい話は読んだことがない)

(3) not only ... but also ~が文と文を結んで, not only が文頭にきた場合 \rightarrow 648

Not only did he ignore what they had said, but he also lied to them.

(彼は彼らの言ったことを無視しただけでなく、彼らにうそもついた)

(4) 否定語のついた目的語 [not a (single) +単数名詞」が文頭にきた場合

Not a merit did I find in his plan.

(彼の計画には何一つ長所が見つからなかった)

(5) 否定の副詞表現が文頭にきた場合

At no time must the door be left unlocked.

(どんな時でもドアの鍵を開けたままにしておいてはいけない)

TARGET 61 代名詞(形容詞)を用いる部分否定,全体否定の表現

	部分否定	全体否定
2人(2つ)	not both	neither not either
	どちらも…というわけではない	どちらも…でない
3人(3つ)以上	not all not every	none no +名詞 not any
	すべてが…というわけではない	どれも…でない

TARGET 62 部分否定の重要表現



- not necessarily 「必ずしも…というわけではない」
- not always 「いつも [必ずしも] …というわけではない」
- not exactly 「必ずしも…というわけではない」
- not altogether[completely / entirely] 「まったく[完全に] …というわけではない」

TARGET 63 強意の否定表現

(1) not (...) at all = not (...) in the least[slightest] / not (...) a bit 「決して [少しも/まったく] …ない」

I'm not tired at all [in the least / in the slightest / a bit].

(私は決して疲れていません)

(2) just [simply] not 「まったく…ない」

I **just**[**simply**] can't understand why he did so.

(彼がなぜそんなことをしたのか、私はまったくわかりません)

* not (...) just[simply] は「単なる [単に] …でない」の意味。

He is **not just** a friend of mine.

(彼は単なる友人ではない)

TARGET 64 強い否定を表す副詞句

以下の副詞句は、いずれも「決して…ない」という強い否定を表す表現。

- \bullet by no means (= not ... by any means) \rightarrow 670
- in no way (= not ... in any way)
- in no sense (= not ... in any sense)
- \bullet on no account (= not ... on any account) \rightarrow 671
- under no circumstances (= not ... under any circumstances) → 672
- *上記表現が文頭にくると強制倒置が生じることに注意 (→645, TARGET 60 (5))。

TARGET 65 far from Aと free from Aの区別

● far from A 「決してAではない」 = anything but A → 675, 676

His answer was far from satisfactory to us.

= His answer was **anything but** satisfactory to us.

(彼の答えは私たちには決して満足のいくものではなかった)

● free from $A \lceil A \text{ bist} \rceil = \text{without } A \rightarrow 677$

Your composition is **free from** mistakes.

= Your composition is **without** mistakes.

(君の作文には間違いがありません)

TARGET 66 remain to be done など

- We have not solved the problem. (私たちはまだその問題を解決していない)
 - = The problem remains to be solved. \rightarrow 678
 - = The problem is[has] yet to be solved.
 - = We have [are] yet to solve the problem. \rightarrow 679

TARGET67 注意すべき強調構文

(1) It is not until ... that ~ […して初めて~する] → 699

It was **not until** Tom came to Japan **that** he learned it.

(トムは日本に来て初めて、それを知った)

(2) 疑問詞+is it that (+S)+V ...? (疑問詞を強調した強調構文) → 700

What was it that he was doing then?

(彼がその時やっていたのは、いったい何だったのだろうか)

*間接疑問にすると、以下のように「**疑問詞+it is that (+S)+V...**」の語順になる。

I want to know what it was that he was doing then.

(彼がその時やっていたのはいったい何だったのか, 私は知りたい)

TARGET 68 目的語に動名詞をとり、不定詞はとらない動詞

- mind […するのを気にする] → 703
- miss 「…しそこなう」
- enjoy 「…するのを楽しむ」
- escape […するのを逃れる]
- give up […するのをあきらめる] → 705
- admit […するのを認める]
- avoid 「…するのを避ける |

- finish 「…するのを終える」
- practice 「…する練習をする」
- put off 「…するのを延期する」
- postpone […するのを延期する]
- stop 「…するのをやめる」
- consider […するのを考慮する] → 704
- deny「…するのを拒否する」 など

TARGET 69 目的語に不定詞をとり、動名詞はとらない動詞

- afford […する余裕がある] → 706
- attempt 「…しようと試みる」
- decide 「…することに決める | →707
- hope 「…することを望む」
- intend 「…するつもりである」
- offer 「…することを申し出る」
- promise 「…することを約束する」

- manage 「どうにか…する」→710
- wish 「…することを願う」
- fail 「…することを怠る/…しない | →708
- hesitate […するのをためらう] → 709
- pretend […するふりをする]
- refuse 「…するのを断る」
- *基本的には未来志向の動詞が多い。

TARGET 70 目的語が不定詞と動名詞では意味が異なる動詞

- forget to do「…することを忘れる」
 forget doing「…したことを忘れる」→713
- mean to do「…するつもりである」→718 = intend to do mean doing「…することを意味する」
- need to do「…する必要がある」
 need doing「…される必要がある」= need to be done →233
- **go on to do**「(異なることを) さらに続けて…する」→716 **go on doing**「(同じことを) …し続ける」
- try to do「…しようとする」
 try doing「試しに…してみる」→717
 (stop to do「…するために立ち止まる」
- *この場合の stop は「立ち止まる」の意味の自動詞stop doing 「…することをやめる」→719

TARGET 71 get[have] A done

- (1) (使役)「A を…してもらう [させる]」 → 722
 I'm going to get[have] this bicycle repaired. (私はこの自転車を修理してもらうつもりです)
- (2) (受身・被害)「A を…される」 →725 She **got**[had] her wallet **stolen**. (彼女は財布を盗まれた)
- (3) (完了)「(自分が)Aを…してしまう」 →723
 You have to **get[have**] your homework **done** by noon.
 (昼までに宿題をやってしまいなさい)

TARGET 72 「V+A+do」の形をとる動詞

- **make A do** $[A \ c\cdots \ \ \ \ \ \] \rightarrow 727$
- have A do 「A に…してもらう [させる]」→724
- let A do 「A に…させてやる」→728
- help A (to) do 「A が…するのを手伝う」
- see A do 「A が…するのを見る」 → 730
- look at A do 「A が…するのを見る」
- watch A do 「A が…するのを見守る |
- hear A do 「A が…するのが聞こえる」
- listen to A do 「A が…するのを聞く」
- feel A do 「A が…するのを感じる」
- * help は help A do, help A to do の両方の形がある。

TARGET 73 動詞 help がとる形

- help A to do ... = help A do ... 「A が…するのを手伝う/A が…するのに役立つ」→731
 He helped me (to) change the tires.
 (彼は私がタイヤの交換をするのを手伝ってくれた)
- help A with B 「A (人) の B を手伝う」→732
 I will help you with your homework. (宿題を手伝ってあげましょう)
- help to do ... = help do ... 「…するのに役立つ/…するのを促進する」→733
 I helped (to) clear the table after dinner. (私は食後の片づけを手伝った)

TARGET 74 入試でねらわれる「V + A + to do」の形をとる動詞

R m

- allow A to do [A が…するのを許す] →734
- advise A to do 「A に…するように忠告する」
- ask A to do 「A に…するように頼む」 → 744
- cause A to do 「A が…する原因となる」→742
- compel A to do 「A に…することを強制する」
- drive A to do 「A に…するように追いやる/ 駆り立てる | →741
- enable A to do 「A が…するのを可能にする」→735
- encourage A to do $\lceil A$ が…するように励ます $\lceil a$ す $\lceil a$ が $\rceil \rfloor$ → 738
- expect A to do 「A が…すると予期する[思っている]」→736
- force A to do 「A に…することを強制する」→739
- invite A to do 「A に…するよう勧める」

- leave A to do 「A に…することを任せる」
- lead A to do 「A に…するようにし向ける」
- like A to do 「A に…するようにしてもらいた い」
- permit A to do 「A が…するのを許す」
- persuade A to do 「A を説得して…させる」 → 743
- remind A to do 「A に…することを気づかせる」
- require A to do 「A に…するように要求する」→737
- tell A to do 「A に…するように言う」
- urge A to do 「A が…することを強く迫る」 → 740
- want A to do 「A に…してほしい」
- warn A to do 「A に…するよう警告する [注意する]」

TARGET 75 動詞 hope がとる形

- hope for A 「A を望む」
 - I hope for your success. (あなたが成功することを望んでいます)
- hope to do 「…することを望む」
 - I hope to succeed. (私は成功したい)
- hope for A to do 「A が…することを望む」→745
 I hope for you to succeed. (私は君が成功することを望む)
- hope (that) A (will) do 「A が…することを望む」→746
 I hope that you (will) succeed. (私は君が成功することを望む)

TARGET 76 「V + O + to do …」 の形をとれない注意すべき動詞

以下の動詞は英作文などで $V+A+to\ do\ ...$ 」の形で使いがちな動詞。択一式の問題でも、誤答選択肢として頻出。

- admit 「認める |
- demand 「要求する」
- inform 「知らせる」

- excuse 「許す」
- propose 「提案する」
- explain 「説明する」

- forgive 「許す」
- suggest 「提案する」 → 747
- hope 「希望する」 → 745

● prohibit 「禁ずる」

TARGET 77 自動詞 lie と他動詞 lay の活用

	原形	過去形	過去分詞	現在分詞
(自動詞)	lie	lay	lain	lying
(他動詞)	lay	laid	laid	laying

TARGET 78 「go +形容詞」の代表例

- go bad「(食べ物が) 腐る」→755
- go mad 「正気でなくなる」
- go bankrupt 「破産する」
- go wrong 「故障する/うまくいかない」→756
- go blank「うつろになる」

- go sour 「すっぱくなる」
- go astray 「迷子になる」
- go bald 「はげる」
- go blind 「目が見えなくなる」
- go flat 「パンクする」

TARGET 79 自動詞と間違えやすい他動詞

- approach A = get[come] near to A
 「Aに近づく」→761
- reach A = arrive at A / get to A
 「A に着く | → 763
- contact A = make contact with A「Aと連絡をとる」→767
- enter A = go[come] into A 「Aの中に入る」→760
- lacktriangle attend $A = go to A \lceil A$ に出席する $\rfloor \rightarrow 762$
- discuss A = talk about A 「A について議論する | →758
- lacktriangle mention A = refer to A 「A について言及する」

- oppose A = object to A 「A に反対する」
- visit $A = go to A [A を訪れる] \rightarrow 759$
- marry A = get married to A 「Aと結婚する」→764,765
- inhabit A = live in A 「A に住む」
- resemble A = look like A 「A と似ている」
- obey A 「A に従う」
- search A 「A の中を捜す」
- survive A 「A より長生きする/A を切り抜けて生き残る」 など

TARGET 80 他動詞と間違えやすい自動詞

- **apologize** (to A) for B \lceil (A に) B のことで謝る $\rfloor \rightarrow 768$
- complain (to A) about [of] B 「(A に) B について不満を言う」 → 769
- argue with A (about B) 「(B について) A と口論する」
- graduate from A 「A を卒業する」
- enter into A 「A (議論など) を始める」
- search for A 「A を捜す」 など

TARGET 81 二重目的語をとる do

- do A good 「A のためになる」 = do good to A (good は名詞で「利益」) →772
- do A harm $[A \cap E]$ の書になる] = do harm to A (harm は名詞で <math>[E]) → 770
- do A damage 「A に損害を与える」 = do damage to A →771
- do A a favor 「A の頼みを聞き入れる」 → 773
- *上記の左側の表現は文脈から明らかな場合は A が省略されることもある。

TARGET 82 二重目的語をとる注意すべき動詞

- cost A B 「A に B (費用) がかかる/A に B (犠牲など) を払わせる」→776
- take AB 「Aが (…するのに) Bを必要とする | →775
- save A B 「A の B を省く」→780
- spare A B 「A に B を割く/Aの B を省く」→781
- allow A B 「A に B を割り当てる」 → 783
- offer **A B** 「A に B を提供する」 → **774**

- leave A B 「A に B を残して死ぬ / A に B を 残す」
- deny A B 「A に B を与えない」 → 782
- **charge A B** 「A に B を請求する」 **→778**
- owe AB 「AにBを借りている [負っている]」→777
- **lend A B** 「A に B を貸す」
- loan A B 「(利子をとって) A に B を貸す」
- wish A B 「A に B を祈る」 → 785
- envy AB 「AのBをうらやましく思う」→784 など

TARGET 83 意外な意味を表す自動詞 do / pay / sell / read / last / work

- (1) do は自動詞で用いられると「十分である/間に合う」の意味になる。→786
 This place will do for playing baseball. (この場所は野球をするのには十分だろう)
- (2) pay は自動詞で用いられると「利益になる/割に合う」の意味になる。→787 Honesty sometimes does not pay. (正直は時として割に合わないことがある)
- (3) sell は自動詞で用いられると「売れる」の意味になる。→788
 This car should sell at a high price. (この車は高値で売れるはずだ)
- (4) read は自動詞で用いられると「解釈される/読める」の意味になる。→789
 The instructions can read in different ways. (その取扱説明書は違ったふうにも解釈できる)
- (5) **last** は自動詞として、期間を表す副詞を伴って「(物・事が…の間) **続く**/(物・食べ物などが…の間) **長持ちする**」の意味を表す。→790,791
- **(6) work** は自動詞として、しばしば well などの様態を表す副詞を伴い、work (well) の形で「(計画などが) **うまくいく**/(薬などが) **効き目がある**| の意味を表す。→**792**

TARGET 84 自動詞と他動詞で紛らわしい動詞

- ((自) lie 「横になる/…のままである」 《活用》 lie-lay-lain-lying
- (他) lay 「…を横たえる/…を置く/(卵など)を産む」《活用》lay-laid-laid-laying →796(自) lie 「嘘をつく」 《活用》lie-lied-lying
- ((自)**sit**「座る」《活用》sit-sat-sat-sitting
 - 【(他) seat 「…を座らせる」 《活用》 seat-seated-seated-seating →797
- (自) rise「上がる」《活用》 rise-rose-risen-rising →794
- 【(他) raise「…を上げる/…を育てる」《活用》 raise-raised-raised-raising →793
- (自) arise 「生じる」《活用》 arise-arose-arisen-arising →795
- 【(他) **arouse** 「…を目覚めさせる ∕…を刺激する」

《活用》arouse-aroused-arousing

TARGET 85 tell / say / speak / talk の用法

- (1) tell「…に話す」-基本的には他動詞
- tell AB 「AにBを話す」
- tell A about B 「B について A に話す」
- tell A to do 「A に…するように言う」 → 801
- tell A that 節 [wh 節] 「A に…だと言う」 →803
- (2) say 「…を [と] 言う」 基本的には他動詞 → 799
- say (to A) that 節 [wh 節]「(A に) …だと言う」
- S say that 節「S(新聞/手紙/天気予報など)には…だと書いてある/Sによれば…」→800
 - * S say that 節の形はよくねらわれる。

- * 目的語に「人」をとらないことに注意。
- (3) speak 「話す/演説する」 基本的には自動 詞 → 798
- speak A「A (言語/言葉/意見など) を話す|
- **(4)** talk 「話す/しゃべる」 基本的には自動詞
- talk to[with] A 「A と話し合う」
- talk A into doing ... [B] $\lceil A \land E$ を説得して… させる $\lceil A \land E$ を説得して B をさせる $\rceil \rightarrow 804$
- talk A out of doing …[B]「A を説得して …するのをやめさせる/Aを説得して B をや めさせる | →805
 - * speak と言い換えができる場合も多い。
 - * 下2つの他動詞用法はともに頻出。

TARGET 86 talk A into doing ... の同意・反意表現

- talk A into doing ... = persuade A to do ... 「A を説得して…させる」 →804
- talk A out of doing ... = persuade A not to do ... 「A を説得して…するのをやめさせる」→805
 = dissuade A from doing ... →TARGET 89
 - = discourage A from doing ... → TARGET 89

TARGET 87 「S+V+A+of+B」の形をとる動詞 (1) — of = 「関連」の of

- inform A of B 「A に B のことを知らせる」→809
- lacktriangle remind A of $B \cap A$ に B のことを思い出させる $1 \rightarrow 806$
- convince A of B 「A に B のことを確信させる」
- persuade A of $B \cap A$ に B のことを納得させる」 \rightarrow 810
- warn A of B 「A に B のことを警告する |
- Suspect A of B 「A に B の嫌疑をかける」→811

TARGET 88 「S+V+A+of+B」の形をとる動詞 (2) — of = 「分離・はく奪」の of

- deprive A of B 「A から B を奪う」→812
- **strip A of B** 「A から B をはぎ取る」
- clear A of B \lceil A から B を取り除いて片づける \rceil →816
- cure A of B 「A から B を取り除いて治す」→814
- rid A of B 「A から B を取り除く |
- relieve A of B 「A から B を取り除いて楽に する」→815
- **empty A of B**「A から B を取り出して空に する」

TARGET 89 「S+V+A+ from doing …」の形をとる動詞

- prevent[stop / hinder] A (from) doing ... 「A が…するのを妨げる」→817,819
 *from がしばしば省略されるので注意。
- keep A from doing ... 「A が…するのを妨げる」→818*こちらの from は省略されることがない。
- prohibit[forbid / ban] A from doing ... 「A が…するのを禁じる」 →820,821
- **Objective** discourage [dissuade] A from doing ... $[A が…するのを思いとどまらせる] \rightarrow 805,822$

TARGET 90 「S + V + A + with + B」の形をとる動詞

- provide A with B 「A に B を供給する」 →823 = provide B for A
- supply A with B 「A に B を供給する」 → 824 = supply B to [for] A
- serve A with B [A に B を供給する] = serve B to A
- present A with B $[A \cap B \in B \in B \in B]$ → 825 = present B to A
- furnish A with B [A に B を備える [備えつける]]
- equip A with B \lceil A に B を備えつける \rfloor → 826
- share A with B 「A を B と分かち合う」 → 827
- compare A with B 「A を B と比較する」 → 828 = compare A to B
- identify A with B 「A を B と同一視する [関連づける]」→829

TARGET 91 「S+V+A+for+B」の形をとる動詞

- blame A for B 「B のことで A を非難する」 \rightarrow 834
- criticize A for B 「B のことで A を非難す る | →835
- punish A for B 「B のことで A を罰する」
- $scold A for B [B のことでA を叱る] \rightarrow 833$
- excuse A for B 「B についてAを許す | \rightarrow 831
- forgive A for B 「B についてAを許す」

- admire A for B 「B のことで A を称賛する」 →832
- praise A for B 「B のことで A をほめる」
- reward A for B 「B のことで A に賞を与え る
- thank A for B 「B のことで A に感謝する」 \rightarrow 841
- respect A for B [B のことで A を尊敬する]

TARGET 92 「B のことで A を非難する / A を告発する / A に責任を負わせる」を表す動詞

- (1) B のことで A を非難する
- **●** blame A for B \rightarrow 834
- criticize A for B \rightarrow 835
- $accuse A of B \rightarrow 836$
- charge A with B \rightarrow 837

- (2) B のことで A を告発する
- charge A with B \rightarrow 837
- \bullet accuse A of B \rightarrow 840
- (3) B のことで A に責任を負わせる
- blame A for B \rightarrow 838
- blame B on A \rightarrow 839

TARGET 93 regard A as B の同意表現

以下の表現はすべて「AをBとみなす」の意味になる。

- look on[upon] A as B

• see A as B

• think of A as B \rightarrow 845

TARGET 94 「S+V+A+to+B」の形をとる動詞

- owe A to B $[A \text{ contact } B \text{ obstites }] \rightarrow 850$
- take A to B [A を B に持っていく [連れていく]] →846
- bring A to B 「A を B に持ってくる [連れてくる]」 →846
- transfer A to B [A を B へ移す]
- leave A to B 「A を B に任せる | →848
- assign A to B 「A (仕事など) を B に割り当てる |
- **attribute A to B** $[A \in B]$ のせいにする $A \in B$ の原因に帰する $\rightarrow 849$
- contribute A to B [A を B に寄付する [与える]] → 851
- add A to B 「A を B に加える |
- drive A to B 「A を B の状態に追いやる |
- expose A to B 「A を B (風雨・危険など) にさらす」→847

TARGET 95 「貸す」「借りる」を表す動詞

- **borrow A (from B)** 「(B から) A を無料で借りる | →856
- rent $A \lceil A \pmod{8}$ を有料で借りる「貸す」/一時的に $A \pmod{9}$ を有料で借りる $A \pmod{9}$
- \bigcirc owe AB = owe B to A [A に B (お金) を借りている]
- lend A B = lend B to A 「A に B を貸す」→858
- loan A B = loan B to A 「(利子をとって) A に B (お金) を貸す」

TARGET 96 suspect & doubt

- doubt that 節「…であることを疑う/…ではないと思う」→861don't think that 節, don't suspect that 節
- * suspect that 節は think that 節に近く、doubt that 節は don't think that 節に近い。したがって、上記のとおり suspect that 節≒ think that 節≒ don't doubt that 節であり、doubt that 節 ≒ don't think that 節≒ don't suspect that 節であると考えればわかりやすい。

TARGET 97 miss A の主要な意味

(1) miss A 「A を見落とす/見逃す」

The post office is down the street. You can't **miss** it. (郵便局はその通りを下ったところです。すぐわかりますよ)

(2) miss A 「A に乗り遅れる」 ⇔ catch A 「A に間に合う」

I got up late and missed the train. (寝坊して列車に乗り遅れた)

(3) miss A 「A を免れる」

We luckily **missed** the accident. (われわれは運よく事故を免れた)

(4) miss A 「A がないのに気づく」

I didn't miss my wallet till I came home. (家に帰ってくるまで財布がないのに気づかなかった)

(5) miss $A \lceil A$ がいなくて寂しく思う/A がなくて困る $] \rightarrow 872$

We will miss you badly. (君がいないとどんなに寂しいことだろう)

(6) miss A 「A を欠席する」 → 873

She never missed any lectures. (彼女は講義に一度も欠席しなかった)

TARGET 98 many / much / few / little の用法と意味

用法意味	①可算名詞 (数えられる名詞) につけて 「数」を表す。 ②名詞の複数形につく。	①不可算名詞(数えられない名詞)につけて「量」「程度」を表す。 ②不可算名詞につく。
たくさんの	many →897	much →896
ほとんど…ない (否定的)	few →895	little →893
少しの(肯定的)	a few →894	a little →892
かなりたくさんの	quite a few →899 not a few	quite a little not a little

TARGET 99 感情表現の他動詞の現在分詞から派生した分詞形容詞

- amazing 「驚嘆すべき←人を驚嘆させる」
- astonishing 「驚くべき←人をびっくりさせる」 → 909
- surprising 「驚くべき←人を驚かせる」→906
- exciting 「刺激的な←人をわくわくさせる」 → 907
- thrilling「ぞくぞくするような←人をぞくぞくさせる」
- interesting 「おもしろい←人に興味を引き起こさせる」
- pleasing 「楽しい←人を喜ばせる」
- satisfying 「満足のいく←人を満足させる」
- moving 「感動的な←人を感動させる」
- touching 「感動的な←人を感動させる」
- boring 「退屈な←人を退屈させる」→908
- disappointing 「期待はずれな←人を失望させる」
- tiring「きつい←人を疲れさせる」
- annoying 「うるさい←人をいらいらさせる」
- irritating 「いらだたしい←人をいらいらさせる」
- confusing 「わけのわからない ←人を混乱させる」
- embarrassing 「当惑させるような ← 人を当惑させる」
- frightening 「恐ろしい←人を怖がらせる」→910
- shocking「衝撃的な←人をぎょっとさせる」

TARGET 100 感情表現の他動詞の過去分詞から派生した分詞形容詞

- amazed 「驚嘆して←驚嘆させられて」
- astonished 「びっくりして←びっくりさせられて」→914
- surprised 「驚いて←驚かされて」
- excited 「興奮して/わくわくして←興奮させられて」 → 912
- thrilled 「ぞくぞくして← ぞくぞくさせられて」 → 913
- interested 「興味があって←興味を引き起こされて」
- pleased 「喜んで/気に入って←喜ばされて」
- satisfied 「満足して←満足させられて」 → 911
- moved 「感動して←感動させられて」
- touched 「感動して←感動させられて」
- bored 「退屈して← 退屈させられて」
- disappointed 「失望して←失望させられて」
- tired 「疲れて← 疲れさせられて」
- annoyed [いらいらして←いらいらさせられて]
- irritated [いらいらして←いらいらさせられて]
- confused 「混乱して←混乱させられて」
- embarrassed 「当惑して← 当惑させられて | → 915
- frightened 「おびえて← 怖がらされて」
- shocked 「ぎょっとして← ぎょっとさせられて」
- * これらの過去分詞から派生した分詞形容詞が、 $\Gamma S + V$ (be 動詞など) + C」の形の C (主格補語)で用いられるのは、原則として S (主語)が Γ (大しのときである。

TARGET 101 似たつづりで意味が異なる形容詞

- alike「よく似て」→916likely「ありそうな」→917
- childlike 「子どもらしい」childish 「子どもっぽい」
- { economic 「経済の」 economical 「経済的な」 → 921
- forgettable 「忘れられやすい」
 forgetful 「(人が) 忘れっぽい」→934
- **∫ historic** 「歴史上有名な」 **historical** 「歴史の
- {industrial 「産業の」→923 industrious 「勤勉な」
- { manly 「男らしい」 mannish 「(女性が) 男っぽい」 (sensitive 「気にして/敏感な/傷つき
- ◆すい」→926sensible 「分別のある」
- sleepy「眠たい」
 asleep「眠って」
 - 「imaginable 「想像できる」 → 930
- { imaginary 「想像上の」 → 929 imaginative 「想像力に富んだ」 → 928

- respectable 「立派な」→932
 respective 「めいめいの」
 respectful 「礼儀正しい/敬意を表して」
 →933
- {alive 「生きて (いる) 」 → 947lively 「活発な/生き生きとした」
- **favorite** 「お気に入りの」 **favorable** 「好都合の」 → 922
- { healthy 「健康な 」 healthful 「健康によい 」
- **finvaluable** 「非常に価値のある」 → 924 **valueless** 「価値のない」
- { regrettable 「(事が) 残念で/遺憾で」 regretful 「(人が) 後悔して/残念で」
- { social 「社会の/社交界の」 sociable 「社交的な」
- \{\begin{aligned}
 successful \[成功した \] \rightarrow 920 \\
 successive \[連続の \] \rightarrow 927
 - (literate 「読み書きのできる」
- literal「文字通りの」→931literary 「文学の」

TARGET 102 「可能」「不可能」を表す形容詞

able[unable], **capable[incapable]**, **possible[impossible]** の用法は以下の形で押さえておく。

- be able[unable] to do ... →936
 He is able[unable] to do the work. (彼はその仕事をすることができる[できない])
- be capable[incapable] of doing ... →937
 He is capable[incapable] of doing the work.
- It is possible[impossible] for A to do ... → 938
 It is possible[impossible] for him to do the work.

TARGET 103 high[low] や large[small] を用いる名詞

- (1) high [low] を用いる名詞
- salary 「給料」 → 943
- price 「価格」
- cost「費用」
- ●wage「給料」
- pay 「報酬」
- interest 「利子」
- income 「収入 」 など

- (2) large [small] を用いる名詞
- population 「人□」 → 944
- crowd 「群衆 |
- audience 「観衆 | → 1057
- amount 「量 |
- number 「数 | → 902
- sum 「金額 |
- salary 「給料」 → 943
- income 「収入 」 など

TARGET 104 叙述用法 [補語] でしか用いない形容詞

- afraid 「恐れて」
- alike 「よく似て」 → 916
- alive 「生きて」 → 947
- ashamed 「恥じて」
- awake 「目が覚めて」
- alone 「ひとりで/孤独な」 aware 「気づいて」
- content 「満足して」

など

TARGET 105 限定用法と叙述用法で異なる意味を持つ形容詞

	限定用法	叙述用法
able	「有能な」	「… することができる 」→ 936 * be able to do の形で。
certain	「特定の/確実な」	「確信して」
sure	「確実な/信頼できる」	「確信して」
late	「亡くなった/故…」 → 950 「遅い」 → 948	「遅れて」
likely	「格好の/適当な」	「ありそうな/起こりそうな」 → 917
present	「現在の」	「出席して/存在して」 → 952, 953

TARGET 106 限定用法でしか用いない形容詞

- current 「現在の」
- elder 「年上の」
- favorite 「お気に入りの |
- former 「前半の/前者の | → 956
- latter 「後半の/後者の | → 957
- live 「生きている | →946
- lone 「単独の/ただ1人「1つ」の|
- main 「主要な |

- mere 「ほんの」
- nearby 「近くの | → 954
- only 「唯一の」
- previous 「以前の」
- total 「総計の」
- upper 「上の」
- lower 「下の」
- very 「まさにその」 → 955 など

TARGET 107 yet / already / still の用法

(1) yet の用法

● yet は否定文で「まだ (…していない)」の意味を表す。yet の位置は文尾。文語では否定語の直後。→973

He hasn't arrived here **yet**. = He hasn't **yet** arrived here.

(彼はまだここに到着していません)

yet は疑問文で「もう (…しましたか)」の意味を表す。Has the mailman come yet? (郵便屋さんはもう来ましたか)

(2) already の用法

already は肯定文で用いて「すでに (…した)」という完了の意味を表す。→976
 He has already arrived here. (彼はすでにここに到着しました)

already は否定文・疑問文で「もう/そんなに早く」といった意外・驚きの意味を表す。否定文の場合は、付加疑問がつくことも多い。→975

She hasn't come **already**, has she? (まさかもう彼女が来たのではないでしょうね) Have you finished your homework **already**? (もう宿題をやってしまったのですか)

(3) still の用法

● still は**肯定文・疑問文**で「**まだ**(…**している**)」という**継続**の意味を表す。 Somebody came to see you an hour ago and he is **still** here.

(1時間前に誰かがあなたを訪ねてきて、まだここにいます)

still は否定文で「まだ (…していない)」という否定の状態の継続を強調する意味を表す。still の 位置は否定語の前。→974

You still haven't answered my question. (あなたはまだ私の質問に答えていません)

● 文頭の still は接続詞的に用いられ、前述の内容を受け「それでも (やはり)」の意味を表す。→977 She turned down his marriage proposal twice. **Still**, he didn't give up. (彼女は彼のプロポーズを2 回断った。それでも彼はあきらめなかった)

TARGET 108 hardly[scarcely] / rarely[seldom] / almostの用法

- (1) hardly[scarcely] の用法
- hardly[scarcely] は「程度」を表す準否定語で「**ほとんど…ない**」の意味。→983 I was so sleepy then that I **hardly[scarcely]** remember the story of the movie. (そのときはとても眠かったので、私はその映画の筋をほとんど覚えていない)
- (2) rarely[seldom] の用法
- prarely[seldom] は「頻度」を表す準否定語で「めったに…ない」の意味。→982My father rarely[seldom] goes to the movies.

(私の父はめったに映画に行きません)

- (3) almost の用法
- almost は否定の意味は含まない。「**ほとんど**…」の意味。
 I **almost** always have popcorn at the movies.

 (私は映画館でほとんどいつもポップコーンを食べます)

TARGET 109 「動詞+(名詞と間違えやすい)副詞」の重要表現

- go abroad 「外国に行く」→991
- go overseas 「海外へ行く」
- go downstairs 「下の階へ行く」
- go downtown 「町へ行く」
- go outdoors 「屋外 [野外] に行く」
- come[go] home 「帰宅する」
- get home 「家に(帰り) 着く」
- live nextdoor to A 「A の隣に住む」
- play upstairs 「上の階で遊ぶ」
- stay indoors 「家 [室内] にいる」

TARGET 110 'ly' の有無によって意味が異なる副詞

'ly' 無し	'ly' 有り
great「順調に/うまく」	greatly 「大いに/非常に」
hard 「一生懸命に」→992	hardly 「ほとんど…ない」→983
high「(物理的に) 高く/高いところに」→994	highly 「非常に/(比喩的に)高く」
just 「ちょうど」	justly「公正に」
late「遅く」→993	lately「最近」
most 「最も」	mostly 「たいていは」
near「近くで」	nearly 「危うく (…するところ)」 → 988
pretty「かなり(形容詞の前で)」	prettily 「きれいに」
sharp 「きっかりに」	sharply「鋭く」

TARGET 111 副詞 much の強調用法

- The taxi driver was driving much too fast. (too ... の強調) →995
 (そのタクシー運転手はあまりにも速度を出しすぎていた)
- Much to my joy, he helped me carry my luggage. (前置詞句の強調)
 (とてもうれしいことに、彼は私の荷物を運ぶのを手伝ってくれた)
- His room is **much larger** than mine. (比較級の強調) (彼の部屋は私の部屋よりもずっと大きい)
- This is much the best way. (最上級の強調)(これがずばぬけて一番よい方法だ)

TARGET 112 副詞 otherwise の 3 つの用法

(1) otherwise 「さもなければ | → 147, 997

She worked hard; **otherwise** she would have failed.

(彼女は一生懸命勉強したが、そうでなければ失敗していただろう)

(2) otherwise 「別のやり方で/違ったふうに」 → 999

You can arrive earlier by bus than **otherwise**.

(バスで行けば他の方法よりも早く着きます)

(3) otherwise 「その他の点では | →998

The collar is a little too tight, but **otherwise** it fits me.

(襟が少々きついが、その他の点ではぴったりだ)

TARGET 113 at first / first(ly) / for the first time の用法

(1) at first 「初めのうちは/最初は | → 1001

I was nervous at first, but I became relaxed later.

(初めのうちは緊張していたが、その後落ち着いた)

(2) first(ly)「(順序を意識して) まず第一に/まず最初に」→1000

First I did the laundry and then I cleaned my room.

(まず.私は洗濯をして.それから部屋を掃除した)

(3) for the first time 「初めて」

When I met the boy for the first time, he was being shy.

(その少年に初めて会ったとき、彼は恥ずかしがっていた)

TARGET 114 文と文の意味をつなぐ副詞(句)

(1) 連結·追加

- also 「その上/さらに」
- besides 「その上/さらに | →1007
- moreover [その上/さらに] → 1008
- in addition 「その上/さらに」
- furthermore 「その上/さらに」

(2) 逆接·対立

- **●** however $\lceil しかしながら \rceil \rightarrow 1013$
- though 「しかしながら」 → 1014
- nevertheless[nonetheless]「それにもかかわらず」→1012
- yet 「それにもかかわらず」
- still 「それでもやはり」 → 977
- all the same 「それでもやはり」

(3) 選択

- or (else) 「さもないと」
- otherwise 「さもないと」 → 997
- instead 「その代わりに/それよりも」→ 1011

(4) 因果関係

- therefore 「それゆえに |
- consequently「したがって/結果として」→1010
- as a result[consequence] 「結果として」
- hence 「それゆえに」 → 1009

(5) 説明·例示

- namely 「すなわち」
- that is (to say) 「つまり」
- for instance[example]「例えば」

TARGET 115 入試でねらわれる不可算名詞

(1)数を表すことができる不可算名詞 (two pieces of A [2 個の A] などの形で)

- advice 「忠告 | → 1015
- baggage「手荷物」
- luggage「手荷物」
- furniture 「家具 | → 1016
- work 「仕事」 → 1064
- housework「家事」
- homework 「宿題 |
- information 「情報 | → 1017
- machinery「機械」

(machine は可算名詞)

- equipment「装備」→1022
- news 「知らせ」 → 1018
- paper「紙」
- poetry 「詩」

(poem は可算名詞)

● scenery 「風景」

(scene は可算名詞)

- evidence 「証拠 |
- * 日本人には数えられると思われる名詞で、不可算名詞であるものが入試に頻出。

- (2)数を表すことができない不可算名詞
- mail「郵便物 |
- **stationery** 「文房具 |
- damage「損害」→1021
- harm 「損害」
- fun 「楽しみ l
- progress「進歩」→1020
- traffic 「交通 (量)」
- weather 「天候 | → 1019

TARGET 116 意味が紛らわしい名詞

「reservation「(ホテルなどの) 予約し

appointment「(診療・面会などの) 予約」→ 1025

(view「(特定の場所からの) 眺め」

→ 1028scenery 「風景」(不可算名詞)

● \{\shade \[\dagger \leq \leq \] \tag{5hade} \[\dagger \leq \leq \]

(flock 「鳥や羊の群れ | → 1024

● { herd 「牛や馬の群れ」 school 「魚の群れ」

● { habit 「個人的な習慣/癖」→1027 custom 「社会的な慣習」

● \[
\begin{aligned}
nephew \[
\text{iso} (おい) \] \rightarrow 1023 \\
niece \[
\text{fg} (めい) \]
\end{aligned}

(dentist 「歯医者」→1026

● { surgeon 「外科医 」 physician 「内科医 」

● { sample 「(商品) 見本 」 example 「(人がまねる) 手本/見本 」

■ {rule 「(競技での) 規則/ルール」order 「(社会の) 規律/秩序」

● { pessimist 「悲観的な人」 optimist 「楽観的な人」

● {rotation 「(天体の) 自転」 revolution 「(天体の) 公転 |

● **lane** 「道路の車線」 path 「(公園・庭園内の) 歩道」

TARGET 117 「お金」に関する名詞

- fare 「乗り物の運賃」 → 1046
- fee 「専門職に対して支払う報酬 [料金] / 受験・入場・入会のための料金」→1055
- admission「入場料」
- charge 「サービスに対して支払う料金/(電気・ガスなどの)公共料金/使用料 | →1056
- **rent**「家賃/賃貸料」→1049
- tuition 「授業料」
- ●income「収入」
- expense 「費用」
- cost「経費/費用」→1051

- pay「(一般的な)報酬/手当」
- salary 「給料/賃金」
- wage 「給料/賃金」
- commission 「手数料/歩合」
- interest 「利子/利息 | → 1050
- profit 「利益 | → 1053
- tax「稅金」→1048
- fine [penalty] 「罰金」 → 1054
- cash 「現金」 → 1052
- change 「小銭/つり銭」→1047
- check 「小切手」

TARGET 118 「客」を表すさまざまな名詞

- guest 「宿泊客/招待客」 → 1060
- audience 「(劇場などの) 観客/観衆/(講演などの) 聴衆 | → 1057
- customer 「商店の客/顧客」 → 1059
- shopper 「買い物客」
- client「(弁護士・建築家などの) 依頼人」→1063
- passenger「乗客」→1062

- visitor 「訪問客/来客/見舞客|
- spectator「(スポーツなどの) 観客/見物人」→ 1058
- patient 「患者」 → 1061
- **buyer** 「(家や車など高価なものの) 購入者, 買い手」
- viewer「テレビの視聴者/インターネットの 閲覧者」

TARGET 119 「仕事」を表すさまざまな名詞

- business 「事業/職務」(不可算名詞)→1067
- work 「仕事」(不可算名詞) → 1064
- job 「仕事」(可算名詞) → 1065
- labor [toil]「(work よりつらい) 骨の折れる仕事 |
- task 「課された仕事/任務/課題」

- occupation 「職業」
- profession「専門職/知的職業」
- trade 「職業/商売 |
- career 「経歴/(生涯の) 仕事|
- assignment 「割り当てられた仕事/宿題」 (可算名詞) → 1066

TARGET 120 慣用的に複数形を用いる表現

- make friends with A 「A と友達になる」 → 1068
- change trains 「列車を乗り換える」
- change planes 「飛行機を乗り換える」
- take turns (in / at) doing ...「交代で…する」→1070

- exchange business cards 「名刺を交換する」
- shake hands 「握手をする | → 1069

など

TARGET 121 複数形で特別な意味を持つ名詞と表現

- be on ... terms (with) A 「(A とは) …の間柄である | (terms は 「間柄 | の意味) → 1073
- take pains 「苦労する」 (pains は 「苦労/骨折り」の意味) → 1071
- put on airs 「気取る」(airs は 「気取った様子」の意味) → 1042
- a man of letters 「文学者」(letters は「文学」の意味) → 1072
- **o** give A my (best) regards = give my (best) regards to A \lceil A によろしく伝える」 (regards は \lceil よろしくというあいさつ」の意味) \rightarrow 1074
- be in high spirits 「上機嫌である」 (spirits は 「気分」 の意味)
- arms 「武器 |
- customs 「関税/税関 |
- forces 「軍隊 |
- goods 「商品」

- manners 「礼儀作法 |
- means 「資産/収入 | → 1075
- ●works「工場」